



第85号

●主な記事

令和6年度行事のご案内
支部・同期会・OB会日より
母校近況・寄贈図書

令和6年6月14日発行
一般社団法人 長野高等学校金鷄会
事務局 ☎(026)235-3822
発行人 山口 利幸
編集人 原 良通

URL
<http://www.kinshi.org>
E-Mail
dousoukai@kinshi.org



ご挨拶

会長 山口利幸 (高17回)

令和6年は元日の能登半島地震で始まりました。震度7の激震が連続して起こり、住居はもとより道路、港湾、上下水道、電気・通信を始め、諸生産基盤、医療、福祉、学校など社会インフラが破壊されました。かの地にはわが同窓の方もおられたことと思います。心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

平素から同窓会へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。令和5年度の諸事業はほぼ計画通り実施できました。この3月には旅費が急騰する中ではありましたがコロナ後数年ぶりに1年生40名の「米国研修」が復活し、支援することができました。「太陽光奨学金」は卒業生2人に給付を決定いたしました。また、前年受給した大学生の報告(会報83号)に感銘した方が寄付を申し出るなど支援の輪が広がりました。ありがとうございました。

さて、令和6年度の重点事業について概要をお伝えします。同窓会の使命は会員相互の交流・親睦と母校への支援にあります。そのためには同窓会のデジタル化を進める必要があります。現在は年に2回会報を郵送していますが、物故者や住所変更等で不着数が増え、この5年間で約一千名強が消息不明になり収入減の一因となっています。その一

方で郵送代等の値上がりも今後予想されます。こうしたことも踏まえ、今後はデジタル化を進めることにより、同窓会業務の効率化と新たにオンラインコミュニティ(学年、クラス、班活等)を構築すること、殊に若手同窓生に活用してもらうこと、また在校生への支援も効率化できること等が期待できると考えております。その結果、会費納入が進み財務改善にも繋がると思います。

昨秋から検討してきましたが、2月の臨時役員会で契約候補社の一つから説明を受け質疑応答を行い、3月の理事会においてデジタル化を進めることが了承されました。来る6月29日(土)に開催される令和6年度学年幹事会に提案し、承認を得たいと考えております。どうかご都合をつけ、お誘い合せて総会に参加いただきたいと思います。併せて翌日30日は金鷄祭の一般公開日になっておりますので、金鷄会館(旧南校舎)にもお立ち寄りください。お待ちしております。



コロナ禍により、4年間中断していた米国研修(1年生希望者)が令和6年3月9日~15日に実施されました。交流先のミルバーン高校にて



ご挨拶

学校長 廣田昌彦

平素より長野高校同窓会金鷄会の皆様におかれましては、本校の教育活動に対しあらゆる面でご支援いただいていることに、ここに深く感謝申し上げます。この一年間、地域や学年、班活の同窓生の皆様の集まりにお招きいただき、親しくお話しさせていただきながら、あらためて母校に対する熱い期待と愛情を受け止めさせていただきました。

昨年春までのコロナ禍にともなう様々な制限から解き放たれ、本校の教育活動は以前の活気を取り戻しつつあります。オンラインを利用して行っていた行事も対面で開催することができるようになり、生徒の海外での学びの機会も戻りつつあります。今後ますます生徒諸君が主体性を発揮し、前例にとらわれずに自分の思いを実現していったほしいと願うばかりです。

生徒会ではパワーナップ（日課に昼寝を計画的に取り入れること）の試行をしたり、応援練習の在り方を考え直したりするなど、本校の長い伝統に敬意を表しながらも、彼らの世代にふさわしい高校生活をいかにすべきか模索を続けています。また、本校は令和6年度、文部科学省のDXハイスクールに指定され、ICT

環境の大規模な刷新に取り組みます。生徒全員がタブレットを教具として所有し、すべての教室に電子黒板が設置されて、授業のみならず生徒や職員の様々な活動においてデジタル・トランスフォーメーションが推進されてきていますが、さらに規模の大きな設備を整えるつもりです。

このように母校は、変化の激しい時代にあって常に新しい姿を選び取ろうとしています。

しかしながら、昨今の国際情勢や国内経済の影響によって、保護者の皆様のご負担を思うと現役生徒の活動に影響が及びかねない状況にきています。コロナ禍前は1年生の希望者により米国研修が、同窓会からも手厚い援助をいただきながら、長く実施されてきましたが、渡航費の高騰により今後工夫せざるを得ないと思っています。また、台湾への研修旅行を再開する予定ですが、これについても諸般の事情に鑑みながら実施することになりそうです。

金鷄会の皆様には引き続き、本校の教育活動を温かく見守っていただき、今後ともなお一層のご支援とご協力をいただきたく、よろしく願いいたします。

神聖なるピアノ演奏会



金鷄祭の一般公開の日（6月29日（土）・30日（日））に校長室を開放して、神聖なるピアノの演奏会を開くことにしました。同窓生諸氏におかれてはよくご存じのことかと思いますが、明治32年（1899年）、三好愛吉初代校長の提唱により、全校生徒申し合わせの上、一冬暖房を断って、その節約した燃料費をもって当時200円でフランス・プレイエル社のピアノを購入しました。このピアノは「神聖なるピアノ」と呼ばれ、本校に大切に伝えられてきました。このように古い楽器なので木製のフレームが使われているため、標準ピッチに調律することができません。しかし、楽器は演奏してこそ存在価値のあるもの。生徒諸君の手で命を吹き込んでもらいたいと思っています。

母 校 近 況

● 令和5年度金鷄賞 長野高校クラブ活動近況

令和5年度に顕著な活躍をした班・部に同窓会より総額40万円の副賞を添えて金鷄賞を贈りました。

1. 金鷄優秀賞 3万5千円
剣道班・軟式野球班・弓道班・かるた班・ECC班
2. 金鷄優良賞 2万5千円
水泳班・羽球班・陸上班・囲碁・将棋班・新聞部
放送部・合唱班・文芸班・書道班
3. 金鷄特別賞
各班で個人として活躍した生徒及び班活動以外の特別活動で活躍した14名に金鷄特別賞を贈りました。



令和5年度 長野高等学校教育設備改善のための委員会 会計報告

| | |
|------|------------|
| 収入総額 | 2,949,285円 |
| 支出総額 | 635,618円 |
| 差引残額 | 2,313,667円 |

| 支出 (単位：円) | |
|---------------|-----------|
| 科 目 | 決算額 |
| ICT環境整備 | 457,488 |
| フィールドワーク交通費補助 | 74,020 |
| 生徒派遣費 | 2,910 |
| 印刷費 | 99,000 |
| 雑費 | 2,200 |
| 支出総額 | 635,618 |
| 収支差額 | 2,313,667 |

| 収入 (単位：円) | |
|-----------|-----------|
| 科 目 | 決算額 |
| 雑収入 | 23 |
| 前年度繰越金 | 2,949,262 |
| 収入総額 | 2,949,285 |

● 羽球班

顧問 小林和成

羽球班です。今回は3項目について記述いたします。

1 「生徒の活動の感想」

令和5年度卒業生で部長として活動を牽引した小池咲彩さんの班活動の感想を掲載します。

班活動で学んだことの一つに、「繋がり」があります。羽球班はここ数年班員が増えており、活動が大変なこともありましたが、その分広がった先輩方や後輩との繋がりに何度も助けられることができました。また厳しい練習を共に乗り越えた同期との絆は強く、受験期には少しの会話でも安らぎをもらい、目標に向かう仲間への姿に何度も勇気づけられました。この他にも

班活動を通して得た学びを今後の人生に活かしたいと思います。

2 「今後の展望」

上記のように班員が男女で50名前後と多く、平日使えるコートが2面しかないため十分な練習ができない状況が続いており、顧問として大変申し訳なく思っています。しかしその中でも生徒達は練習日程や内容を工夫し、共に高め合える良い集団を形成しており、北信越大会出場などの成果をあげています。近年は県内の小・中学生の競技人口が増え、レベルも格段に向上しています。その中で高い次元で学業と競技の両立を志し、本校を目指す生徒が出てくること

が予想されるので、そのような生徒も安心して入班できるよう、地域との連携を一層深め、練習環境を整えていきたいと考えています。

3 「OB会の組織化」について

現在3月にその年度の卒業生と、大学在学中のOBが集まる会を実施していますが、数十年の歴史がある羽球班OBが世代を超えて集まり、親睦を深める会はありません。そこでこの度「OB会」を組織し、今年の年末あたりで第1回OB会を開催したいと考えました。会の設立にご賛同いただける方は下記メールまでご連絡をお願いいたします。内容や会の進め方についてもご意見をいただきたく存じます。

顧問 小林和成

Kaz-koba@m.nagano-c.ed.jp



令和6年度北信総体にて。男女学校対抗県大会出場

● 吹奏楽班

班長 3年7組 西澤遥大

こんにちは！長野高校吹奏楽班です。

私たちは、BEST♡BRENDを目標に掲げて、定期演奏会や夏のコンクールに向けて活動しています。4月には新たに18人の1年生を迎え、1年生18名、2年生15名、3年生12名の計45名

の新体制となりました。

先日、6月2日に第52回定期演奏会を開催しました。多くの方にご来場いただき、無事に終わることができました。ご来場していただいたみなさん、ご支援ご協力いただいたみなさんに



は、感謝の気持ちでいっぱいです！

そして現在、私たちは6月末の金鷄祭や夏のコンクールに向けて練習を重ねています。コンクールでは、悲願の「東海大会出場」を達成するために課題曲、自由曲の練習に取り組んでいます。日々の基礎合奏、個人・パート練習では、班員が協力し合いながら切磋琢磨する姿に溢れています。東海大会出場に向けて、1音1音こだわって音を磨く毎日です。時に意見が衝突することもあります。お互いの考えを尊重し合

いながら、よりよい音楽を目指して、BEST♡BRENDのために班員一丸となって練習しています。そして7月末、8月初頭に迎える本番では、「長野高校」という看板を背負い、いつもご支援くださる全ての皆様に感謝を込めて演奏し、絶対に良い結果を持ち帰ってきます！

これからも、さらに進化した長野高校吹奏楽班をお見せできるように練習に励んでいきます！今後も引き続き、応援のほどよろしく願います。

● 写真班活動状況

顧問 清水俊佑

長野高校写真班は現在1年生4名、2年生2名、3年生2名の計8名で活動しています。班員のほとんどが兼班をしており、活動も週に一回と各々が好きなタイミングで持ち前のカメラを持参し撮影活動に励んでいます。撮影というと調光レンズやフィルムが必要と思われがちですが、写真班の生徒のほとんどは自身のスマートフォンで撮影、編集を行っています。通常のカメラで撮影したものと、スマートフォンで撮影したものの区別はほとんど分からないほど技術の進歩はすさまじく、日々驚かされています。

そんな撮影機能が進歩したスマートフォンのカメラを使ったり、自前のデジタルカメラを使ったりしてオリジナルの写真を撮影する写真班最大の行事は、毎年春に行われる写真甲子園への応募です。初戦のテーマは自由なため生徒それぞれのアイデアが試されます。初戦に向けて毎年ゴールデンウィークに善光寺で春季撮影会を行います。生徒それぞれ工夫を凝らして画角から被写体、光の加減などを調節して撮影しています。ゴールデンウィークということもあり、善光寺は多くの観光客でにぎわっています。そのような中で、大勢の観光客が行き



交う雑踏の風景を作品に残す者、晴れた青空と善光寺の建物を撮る者、大通りから少し外れた閑散とした道にひっそり佇む植物を撮影する者など十人十色な作品を作り上げていきます。

スポーツのようにチームで何か成し遂げたり、吹奏楽のように音で表現したりすることはありませんが、生徒それぞれの感性やその時の感情などを数枚の写真で表現することができます。長野高校写真班の作品で見てくださる方が何か清らかな感情を抱く、そのような作品作りに日々励んでいきたいと思っています。

女性副会長は語る

昨年の学年幹事会・総会において2名の女性副会長が選任されました。繁田美香氏(高27回)と小西恵氏(高33回)です。戦後の学制改革により1952年母校に初めて2人の女生徒が入学して以来70余年、女生徒の比率は年々増加し、現在の男女比率はほぼ1:1となっています。3月24日の理事会の後お二人からお話をお聞きしました。会長の山口が司会をし、原常務理事も参加しました。紙面の制約から概要を紹介します。

Q1

山口：今日はよろしくお願ひいたします。入学した頃の様子などがいかがでした？

繁田：女子は全部で40人ぐらいでした(実際は38名、カッコ内以下同じ)。全体の1割弱ですかね。

山口：私は17回ですが、各クラス2~3人程度でしたね。(24名)

原：私の時(高29回)から12通学区制になって(母校は第3通学区所属)女子が増え、各クラス5~6人で50人ぐらいです。(51名)

小西：私のとき(高33回)は9クラスあり、各8~9人いました。(85名)

山口：女子の大学進学志向の高まりと、直接的には通学区制の導入、本校の進学実績などから長野高校を選ぶ女生徒が増えたということですかね。学校生活はいかがでした？

繁田：女子の更衣室(通称「つぼね」)があり、昼食を食べるのもトイレもそこにしかなかったんですよ。中には自分の座布団を敷くベンチシートがあり、生活の拠点でした。

小西：「つぼね」と呼ばれていたんですか？知りません。「知らない!! わずか6年でそんなに違うんですね」と繁田さん)。私の時は、女子トイレはいっぱいありました。私は卓球班だったので、着替えは女子更衣室ではなくて班室でした。

山口：女生徒であることで困ったこと等ありましたか？

繁田：どっちかというと大事にされたことの方がずっと多かったです。新入生歓迎会の時には卵が飛んできて女子には当てないようにしてくれたとか。柔道も柔道着の中にTシャツを着て男子と一緒にやりましたよ。男子が気を遣っていてくれ、結構仲良くやっていました。

Q2

山口：女性副会長の選任については、昨年退任された中村隆次副会長さんの尽力で定款と理事や学年幹事の選出規程を改訂し、理事から選出する副会長を2人増やして5名とし、内2名を女性とする。学年幹事を新規に選出する際には少なくとも1名は女性とする、改選する学年では1名

は女性とするよう努力することが総会で議決されました。こうした改正をどう受け止めていますか？

繁田：それはいいことですね。

小西：そういう経過があったのですね。なるほど納得です。私は弁理士をしております、業界の女性比率は1割強と極めて少ない。海外は約半々の比率です。女性が活躍する社会にするには、D&I(ダイバーシティ・インクルージョン)という形で、当初には何割かを女性にするという強制力が必要だと思います。そうじゃないと、人事というのは男性が、普段から多く交わりを持って可愛がっていた男性を指名するのが自然な流れなので、男性から女性に移行することはまずないですね。

繁田：私が副会長になったことで、次もまた女性を推薦しやすくなる(小西：絶対そうですね)。女医はやっぱり1割ぐらいかな。その中で何かを企画するとき女子を入れていかないと業界の方向性も偏りますよね。

小西：卒業20周年の時は結構みんな集まります。再会すると盛り上がりネットワーキングができます。私が東京金鷲会副幹事長の時、声を掛けたら女の子が沢山来てくれたことがありました。

繁田：やっぱり女子に声かけやすいのは女子かな(小西：そうだと思います)。

Q3

山口：お二人とも専門性の高い仕事で活躍されています。そんな点を含めて在校生に伝えたいことや同窓会活動への抱負がありましたらお願いします。

繁田：ここ(同窓会館、旧校舎管理棟)に来ると母校の3年間を思い出します。今までの67年のたった3年間ですが、特別なんです。青春期というか自分がどんどん変わる時期で、長野高校生で本当に良かったと思います。同窓会はその時の気持ちを思い起こさせてくれるんです。女子の副会長として何かのお役に立てるなら、と思います。

小西：私は統計数理を専攻しプログラミングを学んでIBMに入りました。資格試験を目指す中で友達の刺激もあって弁理士資格を取りました。子どもの頃から親からは女性でも資格を目指すことを言われていました。女性にとって資格があるという優位性は非常に大きいと思います。これをコアにして自分のキャリアのすそ野や人間関係が広がります。勉強を続けていくモチベーションにもなります。

繁田：私も父が医者でしたので国家資格の必要な医者を小さな時から目指していました。専門性を高めるには常に勉強をしなくてはなりません。それがまた患者さんのためになるんです。専門的資格のいいところですね。

小西：もう一つは高校生のような若い時に異文化体験をすることが大事だと思います。私の場合は入

社してからでしたが、海外での仕事で「なんで話が通じないのだろう」とか、一度叩きのめされる経験が自分の成長に不可欠だったと感じています。

繁田：私は高校の夏休みにシカゴ郊外にホームステイしましたが英語がしゃべれない、聞き取れない経験とか、黒人と白人の世界がこんなにも違うのか、という体験をしました。若い時の異文化体験、その衝撃は自分や日本を知るうえでとても貴重だと思います。

山口：今日はありがとうございました。今後課題となるデジタルネットワークづくりを進めるうえでも、女性の視点からご尽力いただければと思っております。どうも、長時間ありがとうございました。

市民大学事業 金鷄会館連続公開講座

公開講座

主催：東京大学史料編纂所(担当：古代史料部門、「天皇家・公家の「知」の体系化としての文庫・宝蔵研究拠点創設」プロジェクト)

協力：一般社団法人長野教育文化振興会、一般社団法人長野高等学校金鷄会

後援：長野県長野高等学校

於 金鷄会館 大講義室

古典から読み解く歴史学・文学—「いま明かされる古代51&中世」

第1回 7月6日(土)【第338回講演】

東京大学 史料編纂所 古代史料部門 助教

小塩 慶 先生

「説話の継承と変容」—撰関期の消えた逸話群をめぐって—

第2回 7月20日(土)【第339回講演】

東京大学名誉教授・元東京大学史料編纂所長

石上 英一 先生

「読み解く「光明皇后伝」で学んだこと」

第3回 7月27日(土)【第340回講演】

東京大学名誉教授・元東京大学史料編纂所長

加藤 友康 先生

「日記から読み解く平安貴族の世界」

第4回 8月3日(土)【第341回講演】

前東京大学史料編纂所教授

山口 英男 先生

「儀式次第から郡司の〈譜第〉を読み解く」

第5回 8月24日(土)【第342回講演】

前東京大学史料編纂所教授

京都府立京都学・歴彩館 京都学特任研究員

田島 公 先生

「『内裏式』序と「寛平二年蔵人式」序を読み解く」

*お申し込み・お問い合わせは、長野教育文化振興会 tajima@kinshi.org までご連絡ください。



結婚相談室のご案内

相談日は
水曜日です

1. 相談日時 原則として水曜日のみ 10時から16時まで

2. 相談員 長野高校の同窓生である女性相談員が務めております。

ご本人の来室が難しい場合、ご家族様が代わりに相談にお見えになっても結構です。

ご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL 026-235-3822(平日14時～19時)

E-mail dousoukai@kinshi.org <http://www.kinshi.org>

池田満寿夫ギャラリー

金鷄会館では池田満寿夫(高4回)の作品を50点余り、常設展示しております。

ぜひ、ご覧にお越しください。

(平日14時～17時、それ以外の時間は予めご連絡ください。)



支部・同期会・OB会だより



高11回 同期会

3年前、傘寿を前に卒業60周年の案内発送寸前にコロナの蔓延拡散によりやむなく中止に至った同期会を沈静化の傾向が見えた間隙を縫って、令和5年5月11日(木)に開催した。

開催を決断した時点での物故者130名、返信からは本人や伴侶が病んでいる、更に5名が鬼籍に入られたとのご遺族からの返信といった厳しい現実、前回から5年間の空白が恨めしい。

キャンセルが5名もあり上山田温泉上山田ホテルに集ったのは49名で盛会とっていいのか…。亡き旧友のご冥福を祈り黙とうを捧げ、幹事の事情説明、記念撮影の後祝宴に移った。在籍時女性5名のうち、この日唯一人参加された高崎(町田)さんのご発声で祝宴に入った。容姿、体力は如何ともしがたいが心意気は65年前の少年そのものの群れと化した。

当時の生徒会長新保君のリードで校歌斉唱のあと初期の同期会に尽力をされた水上、山下両君の発声で締めた。当初、今回あたりが…といった空気が更に続けて開催を、との雰囲気変わったときであった。

今まで、同窓会会報に寄稿を差し控えてきた11回生ですがここで少しPRを。

同期会開催

1983年(卒業24年)を第1回とし、卒業後節目の年度および参加の都度、宿泊11回、善光寺で物故者法要2回

当初と近年は11月11日を同期の日とし、日帰り開催11回

そのほか田中秀征君、鷺澤正一君の支援に同窓生を煩わすこと数回

社会活動

2011年3月25日 東日本大震災に義援金100万円

2019年12月 台風19号豪雨災害に長野市へ義援金30万円 等々

(内山 威)

高19回 同期会

我々19回生は、「人生ひとやすみしながら」という名目で「一休会」という名称を付けてコロナ前までは毎年同期会を開催してきました。しかしコロナ期間中は開催を見送らざるを得ませんでした。

令和5年9月16日(土)、3年ぶりに長野駅東口の「茶寮志もだ」に36名が集いました。

最初は同期の有志で組織している「一休会しのはら後援会」を開催し、衆議院議員篠原孝の国政報告を受けました。

続いて、一休会総会を行い、過年度の事業報告・決算報告に続き、今後の活動方針案・予算案に賛成をいただきました。ただ、今後の開催頻度は3年に一度程度としました。従来年会費として集めていた資金も協賛金と名前を変えて随意性を出すようにし、終活の方向を探り始めました。長年運営してきた一休会ホーム



ページも閉鎖することいたしました。

その後の懇親会では、大いに飲み語り合い、最後に応援団OBのリードで校歌を歌い、エールを実施して散会となりました。

翌日には年2回37年続いている一休会ゴルフコンペを実施し、14名が集いました。

(一休会会長 北澤眞一)

高13回 三六会の一木会

三六会の一木会は、高校13回、昭和36年卒業で3組の仲間が、月1回第一木曜日に2時間程の昼食会を催し懇親会を深めている集まりです。傘寿を超えたことを機に、忘年の意を込めて、別所温泉七草の湯への一泊旅行(11月21日(火)～22日(水))が企画され、7名の仲間が参加しました。

当日は日頃の行いが良いせいか、雲一つない晩秋の好天下でした。雪を抱えてくっきりと映える北アルプスや北信五岳を望みながら宿の真向かいにある北向観音に厄除参詣し、投宿いたしました。いつもの昼食会と違い、ゆっくりと寛いだ時間の中で歓談いたしました。高校時代の昔しや自らの健康を振り返り、また、最近の混迷する政界や不安定な経済状況、人心世相の浅薄さ、本音を語らず建前論だけで分断を煽りたて、きずなの大事さを忘れていた社会の状態に、歳を重ねて社会の一線を生きてきた者としての憂国の悲憤をぶつけあったものでした。

夕食は妙齢の女将の介添えて贅を尽くした料理に舌鼓を打ち、美酒に杯を重ねて時の過ぎるのを忘れて飲み明かし一日を終えました。

夜明けには浴槽から浅間山の暁光を仰ぎ見、また心

高6回 東京ミニ六期会

令和5年11月15日(水)、がんこ上野本店にて米寿記念と忘年会を兼ねた東京ミニ6期会を久しぶりに開催し6名が参加しました。

東京6期会はすでに解散しておりますが、東京長高金鷄会の6期生有志30名で「ミニ六期会」として東京金鷄会の活動に参加したり、独自に競馬観戦会や忘年会等を企画し活動してきました。これらには、元同窓会長で元長野市長の故塚田佐君も必ず参加しておりました。

新型コロナ騒動の影響で5年間活動休止の状況となり、この間に亡くなられた方や歩行困難になった者も多く、動ける者は10人足らずになってしまいました。

今年はウイングを広げてもう少し集めたいと思っております。

(小嶋敏郎)



を新たにしました。その後、宿心づけのさっぱりした朝食を頂きました。心身ともにリフレッシュし秋を満喫し、十二分なコミュニケーションを謳歌した旅でした。「歳だから」という言葉は禁句として、気持ちを前向きに、老いてなお青春を楽しみ卒寿を迎えるべく誓いあって、幹事の労を謝しつつ宿を後にしました。

(宮澤秀樹)

高28回3組 同級会

令和5年12月1日(金)夕方5時半から高校28回(昭和51年・1976年3月)卒業3組の同級会をJR長野駅直結のホテルメトロポリタン長野の日本料理「しなの」で開きました。クラスは48人、今回の出席は12人、全体の4分の1でした(写真)。卒業から47年、65歳を過ぎて一線で活躍する方、引退して年金生活になった方など様々です。

今回は残念ながら欠席でしたが、「現在の仕事を続けて70歳までは働きたい」、「米国の日本法人の代表をしている」など現役バリバリの方からの返信もありました。新型コロナウイルスの感染が少し落ち着いたとはいえ、医師や薬剤師の方々は今回は出席を見合わせました。

懇談は3人の幹事のうち藤原英明君の司会でスタート。冒頭、亡くなった4人の同級生へ黙とう、献杯・乾杯に。その後、参加者それぞれが近況を紹介しました。すでにお孫さんが3人いる方や、学生時代から猫背で腰が曲がってきたなど印象に残るお話を披露してもらいました。欠席した18人のうち返信のあった方のメッセージは田川昌彦幹事がまとめてくれました。字数の都合でここにご紹介できないのは残念です。夜8時半過ぎまでお酒の量が増すとともに懇談

は尽きませんでした。最後は愛する校歌「山また山」を3番まで歌い、お開きとしました。

次期幹事は地元長野市近郊に住む6人のうち、池田幸隆君、祢津宗伸君の2人が引き受けてくれました。次回はまた楽しみです。(幹事 中澤幸彦)

東京長高金鷄会 総会・講演会

令和5年12月9日(土)、東京長高金鷄会総会・講演会が経団連会館にて開催されました。卒業12期から73期まで幅広い世代の57名が一堂に会し、旧交を温めるとともに、同窓の絆を通じた新たな出会いをもたらす盛会となりました。

ご来賓には、会長・事務局長に加え、廣田昌彦校長先生(高34回)にもお越しいただき、長野高校の近況についてお話しいただきました。コロナ禍の種々の制限からようやく解放され、勉学や班活動に精力的に励む現役生の姿に思いを馳せ、その活躍ぶりに刺激を受けるとともに、在学当時を懐かしく振り返る貴重なひと時となりました。

今回の講演会は、井上慶秀氏(高67回、三菱自動車岡崎硬式野球部)をお招きし、「高校時代の班活動から何を得たのか」というテーマでご講演いただきました。長野高校卒業後から実業団の野球部に所属されるに至るまで、様々な困難に立ち向かいながらも乗り越えてこられたご自身の経験を具体的なエピソードと共に熱量高くお話しいただきました。特に、受験や班活動、そして現在の実業団でのご経験を踏まえ、勉学・スポーツともに共通する心がけとして「量をこなさないと質は見えてこない」とお話しされていたことが印象的でした。その後は、富坂和男氏(高38回、日本放送協会アナウンス室チーフ・リードスポーツ総合デスク)との対談に移りました。富坂氏のさすがプロと感銘を受ける司会ぶりと、事前の緻密な取材に基づいた様々な角度からの質問で、会場は大いに盛り上がりました。

その後、話題提供として、中原裕彦氏(高38回、経済産業省)と池田陽子氏(高54回、経済産業省)から、1月に出版された『官民共創のイノベーション—規制のサンドボックスの挑戦とその先—』という書籍の内容についてご講演いただきました。大きなパラダイムシフトを迎え、様々な課題に直面するこの時代





東京長高金鷲会

において卒業10周年記念同窓会を執り行いました。当日は140名ほどが参加し、中には霧の都・ロンドンから駆け付けた猛者もおりました。

懇親会ではしばしの歓談の後、旅行券、松阪牛、高級タオルセットなど、豪華景品を賭けた福引き抽選会を実施しました。目玉商品は最高賞金10億円の「年末ジャンボ宝くじ1万円分」。幹事が真っ先に当たってしまうというハプニングもありましたが、大いに盛り上がりました。

に、いかに現状を打開するアイデアを社会実装していくかを具体的な実証例とともに分かりやすくお話しいただき、新しい一歩を踏み出すことに背中を押していただける内容でした。

講演会に続き、恒例の校歌の斉唱で始まった懇親会では、多方面で活躍する先輩・後輩・同期と語り合う充実したひと時となり、次回の再会を願いながら最後は県歌「信濃の国」の斉唱にて幕を閉じました。

(高68回 本多麗奈)

2時間という短い時間ではありましたが、同窓会では久々に会う旧友と大いに語り合い、楽しいひと時を過ごすことができました。それぞれの道で活躍する様子を聞き、「自分ももっと頑張ろう」と明日への活力を得られたことは大きな収穫かと思えます。この同窓会の開催にあたり、事務局長の原様をはじめとした同窓会事務局の皆様には多大なご協力をいただきました。ご多忙の中、格別のご高配をいただきましたことをここに改めて深く御礼申し上げます。

卒業10周年記念同窓会は「また5年後にやりましょう！」という熊原君の名スピーチをもってお開きとなりました。66回生の皆さん、また2028年にお会いしましょう！

(代表幹事 三井基史)

高66回 卒業10周年記念同窓会

令和5年12月30日(土)、ホテルメトロポリタン長野



高66回



野球部OB会

野球部OB会 宮澤太成さん激励会

令和5年10月26日のプロ野球ドラフト会議で、宮澤太成さん(高70回)が、西武ライオンズから5位指名を受けました。本校からプロ野球選手は4人目、ドラフト制度が始まってからは初の快挙となります。

県随一の進学校である本校から、野球界の頂点ともいえるプロ野球選手が誕生したことは、校訓である「質実剛健」「和衷協同」「至誠一貫」を体現されたといえます。宮澤さんのその姿に導かれ、長野高校野球部OB会(温故会)では、12月30日(土)激励会を開催し、約90人のOB・OGが集まりました。野球部OBでもある北村晴男様(高26回)からのビデオメッセージ、温故会会長松橋達生様(高36回)からの激励の言葉には、未来への道筋が示されました。また、長野高校応援団の皆様による伝統の応援もホールに響き渡り、宮澤さんや参加者の胸にも響き渡りました。印象的でしたのは、宮澤さんと共に汗を流した仲間からの激励でした。仲間にはかわからない思い出や、歌を交えた激励もあり、宮澤さんは慕われている存在、そして「応援される人間」なんだと感じました。そんな仲間に見守られる中、宮澤さんは鋭いまさごしで「開幕1軍」を宣言し、ルーキーイヤーの活躍を誓いました。立派で頼もしい姿でした。参加した私も胸が熱くなりました。

長野高校野球部には「大きな仕事、大きな苦勞、大きな心」という部訓があります。プロの世界は私にはわからないほど大変な世界だと思いますが、自らの理念と大きな志を持って大いに励んでいただきたいと

思います。母校は「HOME」です。OB・OGの皆様、宮澤さんに温かい声援をよろしくお願いいたします。

(高63回 武田圭弘)

高54回 卒業20周年記念同窓会

去る1月2日(火)、犀北館にて高54回の卒業20周年記念同窓会を開催しました。本来であれば卒業20周年にあたる2年前に開催される予定でしたが、コロナ禍と53回生との順番の関係で本年の開催となりました。

前日に令和6年能登半島地震が発生し、7名が欠席となりましたが、おかげ様で当日は先生方を含めて総勢135名が参加し、盛会となりました。先生方への感謝の気持ちを伝えるとともに、大いに楽しみ沢山の人と交流してもらいたいという目的で会場設営は立食での開催となりました。

10周年においても開催している学年ではありましたが、久しぶりの再会で、同じ時代を過ごした仲間たちと昔の思い出を楽しみ、2時間が全く足りない盛り上がりとなりました。また二次会にも同窓会出席者の半数以上が参加し、遅くまで盛り上がりました。

次回の学年での同窓会は何年後になるかはわかりませんが、また開催できればと思います。今回の開催にあたり、改めて現在の連絡先を整備しました。今後はクラス単位でも早めに開催したいという話も出ていたり、40歳の節目を迎えた我々にとっても今後にいけるような特別な機会となったと思います。

当日は先生方からご祝儀を頂戴いたしました。また



高54回

今回は残念ながら当日不参加だった多くの同窓生からもご寄付をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。当日の参加者からの寄付と合わせて、総額581,758円を長野高等学校金鷄会に寄付させていただきました。ありがとうございました。（竹内友哉）

と業務上の会議と同じような顔ぶれでしたが、同期・同級であったこと、班活動で共に打ち込んでいたことなど、日頃の立場や職位を超えて、高校生当時の思い出話で大いに盛り上がりました。

また、校長先生から母校の近況を伺いましたが、円安・物価高騰下でご苦労しながらの海外研修や、生徒会が中心となった「パワーナップ（効果的な昼寝）」試行など、現役高校生の皆さんの活躍をお聞きし、大変頼もしく感じたところです。

当会の活動もコロナ禍で数年中断していましたが、こうして徐々に以前のような活動ができるようになりました。次はぜひ、多くの会員に参加してもらい世代間の交流ができるよう総会を開催したいという声上がり、次回への期待とともに会を閉じました。

（高40回 池田昌代）

県庁金鷄会

令和6年3月14日（木）、ホテル信濃路で県庁金鷄会令和5年度懇親会を開催しました。

県庁には約200名の会員がいますが、コロナ5類移行後初めてとなる今回は、玉井直会長（高34回）以下庁内の部課長有志16名と、来賓としてお越しいただいた廣田昌彦校長先生（高34回）、県議会の高島陽子議員（高39回）、加藤康治議員（高42回）による懇親会という形での開催となりました。

廣田校長先生はご自身も高34回の卒業生で、偶然にも玉井会長と同期であること、また、長野高校に赴任される前は県教育委員会に在籍していたとお伺いし、最初は若干緊張気味だった会場の雰囲気も一気に和やかなものとなりました。ともする



県庁金鷄会



高15回 関東地区同期会 5年ぶり開催

去る3月16日(土)、我々長高15回生の関東地区同期会が開催された。猛威を振るうコロナ禍、高齢者は特に要注意ということで4年にわたる中止のあとの開催である。

都心赤坂日枝神社に近いビル内の「永楽倶楽部」を会場に、昼開催とした会には長野など遠方からの参加もあわせ36人が集まった。八十路を前後する年となり一段と老人力が増した我々だが互いの顔を見、話を交わすや金鶏ヶ台に学んだ少年時代に気も心も立ち返り会場は「やあやあ」と弾んだ声、笑い顔が一杯。これこそ同期会に集う喜びであり滋味とも言うべきか。

12時半開会。まずは中止の間に他界された同期の諸氏6人の方々の冥福を祈り黙祷の後、今回も長野から駆け付けてくれた徳武君の音頭で乾杯、続く午餐はマジシャンのアトラクションもあって大いに盛り上がった。近況報告では年相応に健康状態や体の不自由を語る声の一方、「退職以来毎日1万歩の散歩を欠かさない」「中国語、英語の学習に励んでいる」あるいは「テニス、ゴルフを楽しんでいる」など元気な諸氏も多く、コロナで引きこもり生活に沈んだ身には大いに刺激をもらった思いであった。締めくくりは応援団長・五明昇君の指揮による校歌斉唱、そして力強いエールで盛会のうちに会を閉じた。

会員も超高齢となり、クラス順に幹事持ち回りは今回限りとの意見もあったが、今回はこれまで通りとしバトンは次回のクラスに引き継がれた。

なお金鶏会事務局には創立100周年記念のCD「金鶏健児愛唱歌集」をご寄贈いただきありがとうございます。今後も同期会の場で活用、利用させていただきます。(24年開催幹事 柳田雅之)

高14回 傘寿を祝う同期会

厳しい冬の長野から桜の開花も始まり気持ちも晴れやかになる春となった、令和6年4月10日(水)13時から全員が80歳を過ぎた14回生の同期会を7年ぶりにホテルメトロポリタン長野にて開催しました。今までは卒業後5年ごとに実施してきましたが、前回の55周年(2017年9月)同期会を開催して以来7年ぶりでした。

この間、「喜寿(77歳)を祝う会」の企画もし、日時を決めホテルも2020年4月に予約しましたが、新型コロナウイルスの発生によりやむなく中止となってしまい、しばらくぶりの開催となりました。

故人や住所不明者を除いて330名ほどの同期のものに案内を送付したところ、230名の人から返事があり、うち亡くなったと奥様や家族の方から返信のあった人が20数名。この7年の間にかなりの方が亡くなられたことも判明し、80歳という年齢をつくづく感じました。現在判明している故人数は約90名、住所不明者や返事のなかった人の中にも故人がいると考えると約100名(25%)以上の同期生がいると考えられます。

さて、集まった同期生は63名(前回は90名)、北海道や大阪から来た方もいました。13時に写真撮影、そして、先生方が全員故人となられたため卒業時の先生の写真を一人ずつプロジェクターで映し出し、先生と亡くなられた同期生へ黙祷をしたあと開会となりました。

80歳ともなると集まった人たちの体力の差が大きく変わるものだと感じ、この年齢の7年は今までとは違う年の進み方を感じました。元気澁刺とした人、杖をついて歩いてきた人等さまざまでした。

会も進み、卒業時の各クラスの写真も映し出され、思い出や現況の様子等で話もはずみ、最後に校歌「山



また山」・「信濃の国」を声高らかに歌い閉会となりました。

次回は卒業65周年かな…。 (鹿熊 厚)

松本金鷄会 ふたたび

「第13回松本金鷄会」が令和6年4月23日(火)、松本市のファイブホルン松本PARCO店にて久しぶりに開催されました。安曇野赤十字病院名誉院長の中野武会長(高25回)の下、24名の金鷄健児が集まり、互いに中信地域での活躍を励まし合い、祈念いたしました。

コロナ禍が明け、本格的に盃を酌み交わす環境が整い、本会が開催され日新鐘への記事が送れることを大いに喜びたいと思います。

本会はそもそも高11回の池田紀夫さん(株式会社日本広告会長)、新保力さん(株式会社市民タイムス会長)、藤澤繁雄(株式会社五千尺会長)さんのお三方が中心となって、約10年前に立ち上げられ、様々な方面へのご縁がつながり今に至っております(正確に言えば「第0回」が存在し、今回は14回目なのですが)。のべ123名の参加者を数えました。今回も予想通り(?)参加者間で55年もの年代差がありましたがものともしません。誠に善き呑み会であります。強いて言えば老若男女の「女性」が足りません。次回は課題解決に向かいたいと思います。

次回の開催時期が決まっているわけではないのですが、今回開催場所となりましたファイブホルン様からは、大変リーズナブルなプランをいただきましたの



で、松本PARCO閉館前にもう一回同店にて開催する予定であります。

松本PARCOでもう一度「山また山」を歌いたい方、ぜひおいでいただきますようよろしくお願いいたします。
(高31回 金子智雄)

吹奏楽班OB・OG会 第55回定期演奏会開催

去る3月30日(土)、長野高校吹奏楽班OB・OG(以下、OB)会は第55回記念定期演奏会をホクト文化ホール中ホールで開催いたしました。

コロナ禍の影響で過去4回の演奏会が中止となり、実に5年ぶりの開催となりました。例年通り3部構成で、第1部、第3部は現役生とOBとのジョイントステージ、第2部は現役生のみ演奏という構成で行われました。

長野高校の現学校長である廣田昌彦校長(高34回)は現役時代に吹奏楽班の班長を務め、また教師になって

からは同じく長野高校で吹奏楽班副顧問として生徒を指導されていましたが、今回の演奏会のプログラムで挨拶文を寄稿していただき、あらためて伝統の重みを感じさせられました。また演奏した曲の中には、吹奏楽班OBの作曲によるものもあり、OBの活躍に現役生たちも希望を感じておりました。

演奏には幅広い年代のOBが80名ほど出演いただき、現役生と合わせると約100名での迫力ある演奏となりました。久しぶりの開催で告知も十分にできなかったため、集客の心配がありましたが、多くのお客様にご来場いただき本当にありがたく思いましたし、継続していくことの大切さをあらためて感じました。今後も現役生の支援を充実させるとともに、OB同士の交流をさらに深めながら、その輪を広げていきたいと思っております。

〈お知らせ〉定期演奏会の様子は公式サイトでご覧いただけます。⇒ <https://nhb-obog.net>

(令和5年度幹事学年代表 高74回 竹内耕聖)





高9回

ている「助成金・祈る健闘」は両監督にお渡ししました。また関東在住OBが集う東京三星会の様子を井出宏副会長（高14回）より報告いただき、仁科恵敏参与（高4回）には今年も見事な尺八の演奏をしていただきました。予定時間はあっという間に大幅に過ぎてしまい、いつも練習終了後に歌って

高9回 東京北ラス会

東京北ラス会は、コロナ禍や大地震での休会はいたしました。昭和44年にたまたま集っていた面々が「北ラス会」と名付けて以来、途切れることなく今日まで続いてまいりました。

本年は5月9日（木）にKKRホテル東京に85歳の北ラス会員34名が各地より集い、賑やかに楽しい時間を過ごすことができました。今年も校長先生からいただいた資料を拝見し、母校が文武両道に幅広く発展していることを大変うれしくまた頼もしく思っている次第です。

これからも母校の皆様の益々の発展・活躍を願い、我々北ラスの面々も、もう少しの間、健康に気を付けて再会ができるようにと願いつつ散会となりました。

（長田信一）

三星会総会開催

コロナ禍で開催が途絶えていた三星会総会は、ようやく毎年恒例の4月第4土曜日・27日に長野駅前「油や」にて開催できました。廣田昌彦学校長（高34回）、東星吾排球班監督、谷口徹博女子バレー班監督、OB含めて22名が出席。残念ながら現役生の出席は叶いませんでしたが、久々の再会にいつも以上に熱気溢れる集まりとなりました。

柄沢洋一会長（高17回）の挨拶に続き先生方からは母校の様子・諸大会への参加・日々の練習の様子等も詳しくお話いただき、いつもは現役生に贈呈し

いた班歌「暁鐘の歌」、そして校歌「山また山」を齊藤明雄副会長（高27回）の指揮で大合唱、押田光義副会長（高27回）の閉会の辞で散会となりました。

今回の開催については事前に役員会を開き、当日は事務局そして若手OB等が準備に尽力してくれ盛会裡に終了しました。ご苦労様でした。

また、会の規約を改訂しましたのでその一部を記します。

- (一) 名称・構成：本会は【三星会】と称し、長野中学・長野北高・長野高排球班・女子バレーボール班のOB・OG及び本会の主旨に賛同する者をもって構成する
- (二) 目的：本会は会員相互の親睦を計り、母校現役への応援を目的とする。
- (三) 活動内容：総会の開催、現役主催「新年コート開き」への参加、諸大会への参加、その他

（以上、抜粋にて）

（事務局長 高40回 谷口博一）



三星会

金鷄太陽光120奨学金

令和6年3月2日、卒業式当日に金鷄会館において2名の卒業生に山口会長から認定証書を渡し、4回目の奨学生を送り出しました。卒業生・保護者から感謝の言葉をいただくとともに今後の希望を聞かせてもらいました。

なお、令和5年度も匿名の同窓生からのご寄付を頂戴したため、昨年に続いて上乘せして給付させていただきました。

また、昨年の奨学生から進学後の近況が送られてきました。それぞれ頑張っているようですので、今後の活躍に期待したいと思います。

太陽光奨学金のおかげもあり無事に初年度の大学生活を過ごすことができました。改めて感謝申し上げますと思います。

初年度の学生生活を振り返って思うのは入学時の不安感とは裏腹にあっさりと過ぎた一年間であったということです。授業に関して、一般教養科目と専門科目に分かれており高校の授業の時のような幅広い知識とそれらとは少し異なる専門性のある知識を身に付けることができました。情報学部に進学したこともあり、プログラミングやインフォマティクスなどの情報関係の授業は特に印象に残りました。情報学という分野が社会にどのように貢献をするのかを知っていくことで、勉学へのモチベーションを高めることができました。サークルに関して、新しい趣味としてボードゲームサークルに加入しました。活動頻度はそこまで高くありませんが、人との交流を通じて大学生活を充実させてくれています。アルバイトに関して、この一年間で飲食とプログラミングスクールのコーチのアルバイ

その節は太陽光奨学金・同窓会より特別奨学金を給付していただき本当にありがとうございました。アパートの入居費用やパソコンの購入などに使わせていただきました。親の助けにもなり大変嬉しかったです。大学に進学してから早くも1年が経過し大学生活や一人暮らしにも慣れ、日々部活動や勉学に励んでおります。

この一年間で最も私に影響を与え、エネルギーを注いだのは部活動です。高校時代からの夢であったチアリーディング部に入部し、先輩2人に対して1年12人という比率で大半が初心者からのスタートでしたが、6月の東京都立大戦のオープニングをはじめ、チアフェスティバルという大きなイベントや学祭、横浜マラソンの沿道応援、バスケのハーフタイムショーなど多くのイベントに出演させていただきました。2月末にはリージョナルズという地区大会に出場しました。

トを経験しました。大学では体験できない業務や人間関係などとても良い社会経験となっており、学校生活とは違った学びを多く得ることができています。普段の生活について、一人暮らしも最初は不安がありましたが自身の力で物事に対処する社会的な能力を高めることができています。

今後学びたいことについて、現在学んでいる情報分野の内容は基礎的なものであり、それらを具体的にどのようなように社会に活用していくかの想像が難しいです。そのため自身の将来像がまだ定まっていない状態にあります。進級するにつれて授業の難易度も専門性も高まっていき、実践的な内容にも入ってくると思います。それらを通じてよりはっきりと自身の将来が見えてくるような学習をしていきたいと思っています。

最後に改めましてこうした大学生活を送ることができたのは奨学金の支援があったからであると感じています。本当にありがとうございました。

私は11月末に膝を怪我してしまい選手のサポートという形での参加でしたが、来年は全国大会に進み、引退までには全国優勝を目指しています。怪我の苦悩もありましたが、その分自分にできることを精一杯取り組むという意識でチームに貢献する努力ができたと感じています。全員の息を合わせる事が重要なチームスポーツなので、自分の意思を持ちつつ周りとは協調していく大切さや新しい技を習得できた時の達成感をみんなで味わえる幸せをたくさん感じられた一年でした。2年次からは会計として幹部に任命され、新入生も加わった新体制で部員をまとめる立場として志高く努力を続けていく覚悟です。

勉学については、1年後期に配属されるプレゼミという授業で心理統計を選択し、「クリティカルシンキング」という、物事に対して常に多面的な視点を持ち偏りのない判断力を養うことの重要性を学びました。2

年次からは本格的な少人数ゼミに所属します。私は教育心理ゼミに配属されます。プレゼミに引き続き、まだ漠然とした興味ではありますが「人の心」に関わることを学びたいという思い、自分が教育を受ける中で大きな壁であり続ける経済的な負担（教育格差）について深く考え解決の糸口を探していきたいです。

また、時期は未定ですが在学中に長期の留学に行きたいと考えているため自習のほかに、本学特有の英語学習プログラムであるAdvanced Practical Englishとい

うすべて英語で会話をする授業を履修し実践的な英語力の養成に励んでいます。英語以外の言語にも興味があり、第2外国語として1年次は中国語を学びました。今後もヨーロッパ圏の言語なども学ぶ予定です。

新たな挑戦が多く本当にあつという間の一年間でしたが、奨学金を給付していただき、私を応援してくれる方々に胸を張っていただけるよう、感謝を忘れず今後も精進してまいりますので見守っていただけると幸いです。

お悔やみ 金鶏会館入口の看板を揮毫していただいた弁護士の才口千晴（高9回）さんが4月17日に逝去されました。才口さんは母校への思いも人一倍強く、法曹金鶏会の立ち上げにも尽力いただきました。また、弁護士出身で最高裁判事をされるなど、法曹界全体にも大きな足跡を残されました。心からご冥福をお祈りいたします。

令和6年度同窓会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

送金方法

①同封の振込用紙でのお振り込み

コンビニ・郵便局のどちらでも利用できます。

口座振替の方は6月27日(木)に引き落としとなります。

②用紙を使わずネットバンキングやATMで銀行へのお振り込み

下記の口座へお願いいたします。なお、その際はお名前と卒業回期または振込用紙に記載のお客様番号を入力してください。

本年度は高14回までの会員の方々が会費免除になります。

八十二銀行 長野北支店 普通 133722 一般社団法人長野高等学校金鶏会
長野信用金庫 城北支店 普通 0031958 一般社団法人長野高等学校金鶏会

令和6年度 同窓会総会のご案内

期 日 令和6年6月29日(土)
会 場 ホテル国際21
総 会 午後2時～ 藤の間
講 演 会 午後3時～ 藤の間
演 題 「経団連」と「ガールスカウト」
デュアルキャリアを生きる
講 師 一般社団法人日本経済団体連合会
国際経済本部長
公益財団法人ガールスカウト日本連盟
前会長
和田 照子氏(高40回)
懇 親 会 午後4時30分～ 芙蓉の間
会 費 6,500円 当日受付でいただきます。
*今年度の当番は、高40回・高52回の方々です。
*出席される方は事務局へお知らせください。

回期別対抗ゴルフコンペのご案内

期 日 令和6年9月29日(日)
場 所 長野カントリークラブ
TEL 026-239-3100
費 用 プレー代 15,250円(食事付き)
※優待券は使えません
参 加 費 3,000円
競 技 方 法 新ベリア方式
☆団体戦：各回期上位3名までの団体
合計成績順位
☆個人戦：個人別成績順位
申 込 方 法 メールまたはFAXで同窓会事務局へ各
回期3名以上の連記(2組以上も可)で
お申し込みください。
締 切 り 日 9月14日(土) *25組で締切ります
※今年も、個人参加の枠を若干用意しましたので、同期
3名以上とならない方もご参加いただけます。
※各組のスタート時刻、その他詳細については9月20日
頃、参加者にご連絡いたします。

寄贈図書



記備談話Ⅲ
著者 佐藤玄祥(博)氏(市中4回)



医療・福祉の総合情報誌
JAPAN MEDICAL SOCIETY
2024年新春号〜薫風号
野村元久氏(高10回)寄贈



草の根 ファミリーヒストリー
「信州・諏訪岡谷の地で、明治・大正・昭和・平成の時代を生きた或る家族の歩み」
著者 瀧沢敬三氏(高13回)



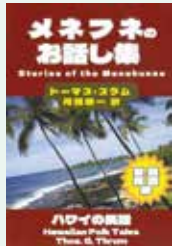
やまと言葉の人間学
著者 竹内整一氏(高17回)



時論・孝論(農林編)
持続する日本型農業
著者 篠原 孝氏(高19回)



農的循環社会への道
著者 篠原 孝氏(高19回)



メネフネのお話し集
著者 月岡康一氏(高19回)



労働法の正義を求めて
和田肇先生古稀記念論集
和田 肇氏(高24回)寄贈



歌集 朧三日月
著者 小山国憲氏(高26回)



新発見史料・新解釈による
古代・中世前期の信濃
—「『信濃史料』古代編(2・3巻)に係る未収史料の収集に関する基礎的研究」の成果—
田島 公氏(高29回)編著



島村利正 作品とその風景
「城址のある町」から「火山峠」へ
著者 六川宗弘氏(高33回)



官民共創のイノベーション
規制のサンドボックスの挑戦とその先
中原裕彦氏(高38回) 編著
池田陽子氏(高54回)



死の貝
日本住血吸虫症との闘い
著者 小林照幸氏(高39回)



だから知ってほしい
「宗教2世」問題
塚田穂高氏(高51回)編著



長野高校生物班OB会誌
うばたまむし16号
2023(令和5)年
生物班OB会 寄贈

ご寄付をいただきました。

- ◇高17回 伊賀賢司氏から10万円のご寄付をいただきました。
- ◇高54回 卒業20周年同窓会 58万1,758円のご寄付をいただきました。
卒業生の卒業証書ファイル購入資金として使わせていただきます。
- ◇匿名の同窓生の方から20万円のご寄付をいただきました。
120周年記念事業の「金鶏太陽光」奨学金に上乘せする形で使わせていただきます。

ありがとうございました。

お詫び

高11回と高19回の同期会記事・写真は前号の第84号に掲載予定でしたが、事務局の手違いにより掲載できませんでした。今号に掲載させていただきました。関係の皆様にお詫び申し上げます。

事務局便り

- 米国研修ではハーバード大学での交流、MIT見学、ミルバーン高校との交流、国連本部見学など例年と同様のプログラムを行い、ニューヨークでは在住のOBとの交流も実施されました。ご尽力いただいたOBの皆様感謝いたします。
- 金鶏会館の学習室、大講義室でWi-Fiが繋がるようになりました。タブレットやスマートフォンを利用した学習が可能となりました。
- 長野県は、『共創型』ふるさと納税受付サイト「ガちなが」を立ち上げました。その中の一つに「信州『学び』応援寄付金」があり、長野高校に直接支援することができます。関心のある方は長野県や長野高校のホームページをご覧ください。